



親子4代で、伝統芸能「神楽」を守り続けている 佐藤さんご一家をご紹介します。



▲左から弘明さん、大地君、今朝盛さん、義勝さん

波野中江地区に佐藤今朝盛さん96歳はじめ4世代で、中江岩戸神楽に出演しているご一家があります。今朝盛さんの長男義勝さん(65歳)と、孫の弘明さん(39歳)、曾孫の大地君(9歳、波野小4年)です。今朝盛さんは体調が良い時に出演されており、最近では7月の定期公演に出演され、4世代そろっての舞台が叶いました。4世代とは大変めずらしいことですが、これも今朝盛さんが96歳ながら技術劣らずお元気であること、義勝さんが中江神楽保存会の会長として一生懸命伝承活動に取り組んでおられること、弘明さんが家の農業を継ぐため自衛隊を辞め波野に戻って来たこと、そして、

波野子ども神楽を2年前から始めた大地君が、4年生ながら上達し早くも人前で披露できるようになったこと、これらが成した一線の絆です。

約260年の歴史を持つ中江岩戸神楽は、こうした親から子への継承を一世帯一世帯が務め、地区全体で守り継がれている伝統文化です。波野地区には、もう一つ横堀地区に横堀岩戸神楽があります。同様に大切に文化が継承されています。

「中江に生まれてよかった」

佐藤さんのお宅は、代々農業で、現在、ナスビ、トマト、里芋を生産されています。農業を継ぐため31歳でUターンした弘明さんは、すぐに消防団と神楽から誘いを受けました。地域にとって大事なものと迷わず両方に入ったという弘明さん。毎週土曜にある神楽の練習について「始めは正直きつかったですね。しかし公演でお客様の前に立ち出したら、反応が気になり始め、もっと上達したいと思ひだし、私も含め若手は皆練習に意欲が出てきた感じです。皆で集まって話すことも楽しい！神楽がなかったら、こんなに年の上下の人と話す機会はなかったと思います。この絆で、農業や生活面でも助け合っているの、中

江は山奥で不便な面もあるけど、ここに生まれてよかったと思っ
ています。」

また、義勝さんも、「私もここに生まれてよかった。神楽は神々の事を舞うので、幼い頃から、悪いことをすると罰が当たる気がして、昔からの家庭でも正しい姿勢が自然と身につけていた気がします」と話され、神楽の存在の深さに、波野の雄大な自然の中に凜と佇む『神々の里』を感じます。

「神楽歴80年を超えても」

神楽歴80年を超える今朝盛さんでさえ、舞いも演奏も「難しい」と言われます。教材は無く先輩の身振り手振りで覚えます。だからこそ早くから神楽に慣れ親しんでほしいと、義勝さんは現在、前会長の榎木野霞さんと一緒に波野子ども神楽の指導を行っています。毎週2時間みっちり子どもと汗を流されるお二人。「子どもはリズム感がいい。舞台度胸のある子は時々大人顔負けの演技をします」と目を細められます。

「華やかな衣装は保存会女性による手縫い」

神楽は男性だけが舞台上に上がりますが、女性たちも大きな支えです。あの重厚で煌びやかな衣装



▲昨年の神楽フェスティバルの様子

は、ほとんどが保存会の女性の方々による手縫い。反物に型を取り裁断し縫う作業に皆で何日も取り掛かり、あのような見事な衣装を作り上げています。

「体力の限界に挑む」

「中江神楽は33座全てを舞うと昼夜24時間かかります。普段披露する演目だけでも、非常に体力がいり毎回汗だくですが、観客の皆さんの厚い応援に、また次回も頑張ろうと保存会一同励まされています」と義勝さん。この秋も県内各催しに招かれ公演が続きますが、「今後も熊本県の伝統芸能として飛躍していきたい」と意欲を語られました。